

1. 主屋 座敷部不陸調整

傾斜修正に続いて座敷部の不陸調整に取りかかった。座敷部は北東キジノマ(木地間)付近が一番沈下しており、最大で4cm程度落ち込んでいた。座敷部は礎石据え直しをしないこととしたので、ジャッキを掛け、飼石をして所定の高さに戻している。写真はブツマの柱を持ち上げているところ。

座敷部の不陸調整は現在も継続しているが、完了すれば、主屋の不陸調整が全て終わる。



2. 主屋 大引の据付

取り外していた大引を大広間部分より据え付けている。写真は大広間の南東を見た状況。

大引は蟻害を受け、大広間では5本を取り替え、1本を継木修理した。また束も同様に蟻害が見られ、再用出来ない束は、今後の維持管理のため、取り替え材を在来の杉丸太材より、桧芯持ち角材に変更した。下端はズレないように、束石に丁寧にヒカリ付けた。大広間に続き、台所大引を据え、続いてイマ・ナンドに取りかかっている。



3. 主屋 差物の修理

主屋土間北面出入口上の差鴨居は、柱から白蟻が入り、白太部分がかなり喰われていた。しかし、化粧部分は比較的きれいであったのと、もとはよく肥えた油の多い松材で赤身がしっかりしており、荷重に十分耐えると判断したので、矧木修理して、再用することにした。

写真は矧材を組み上げる直前の様子(白い木が矧付け材)で、矧材は5つの部品からなる。樹脂のみに頼らず、寄蟻を仕込んで引き付けている。

